

「子ども読書活動推進フォーラム2015」事業報告

子ども読書活動推進フォーラムは、子ども読書活動の推進に関し、広く市民の関心を高め、その理解を深めることを目的として、市民・関連団体・学校・中央図書館との協働により、毎年秋ごろに開催されます。今年は3月に一般市民より公募した3名と、文庫会や小中学校関係者、中央図書館職員の計13名で、4月に今年度のフォーラム実行委員会を立ち上げ、10月の小中学生の秋休みに合わせて開催できるよう準備を進めてきました。

フォーラムに先立ち、中央図書館館内では9月から約1か月の間、フォーラム実行委員会による展示が行われました。



エントランスホール壁面に小学校でアニメーションを体験したお子さんたちの感想が、第1フロア中央通路パネルには、フォーラムのご案内と講師のご紹介がありました。今回実演を行ってもらうアニメーションに関する本の特集も設置されました。

そうして迎えた10月9日、市原市市民会館にて『子ども読書活動推進フォーラム2015』が行われ、小さいお子さんから、おじいちゃんやおばあちゃんまでご家族揃って、また、子どもの読書教育に関心をもつ方など総勢222名の参加がありました。



開会式では前田教育長が、10歳の頃『トムソーヤの冒険』を買ってもらった時のエピソードとその本と一緒に紹介。「子ども時代の読書の思い出が、半世紀を越えて大人になった今もなお鮮明に残っている。少年時代の読書は、一生の宝物になる」という実体験を語りました。

第1部は人形劇団Zの『ジャックと豆の木』。手作りの人形により繰り広げられる物語の世界に会場の皆が入り込みました。大きく伸びる豆の木に目を見張り、鬼の迫力に驚き、天使のかわいさにくったり。そして小さな主人公が果敢に向かっていく姿に、子ども達は感動したようです。



第2部はNPO法人日本アニメーション協会理事長 黒木秀子（くろき ひでこ）先生により、『楽しい読書教育～こどもも大人も本の世界で遊ばしましょう～』という演題で子どもたちと一緒にアニメーションを行っていただきました。



低学年の部の題材は、絵本『あたごの浦』（脇 和子・脇 明子//再話 大道 あや//画 福音館書店 魚たちが砂浜に集まって演芸会を開くゆかいな讃岐の昔話）。登壇児童が登場する魚になりきり、自分の魚が本文に出てくる度に、元気な声で「ここにいるよ！」と人形を頭上高く上げてくれました。出番を今か今かと緊張しながらも、しっかり耳を澄まし、物語を注視する様子がほほえましく、客席も一体となって物語を楽しみました。



高学年の部は、絵本『ピンクのれいぞうこ』（ティム・イーガン//作・絵 まえざわ あきえ//訳ひさかた チャイルド 冷蔵庫の中にみつけた様々なものを通じて新しいことにチャレンジしていくねずみドズワースのお話）。登壇児童が、5分という短い時間で真剣に物語の中身を吟味し、一人ひとり素敵な新しい題名を考えてくれました。発表される度に会場全体と一緒に考え、うなったり感心したり。人気投票では「ドズワースとふしぎなれいぞうこ」が1位に。どのお子さんも、自分の考えや感想をしっかり伝えることができました。

「本を読むということは、お話の中身を頭の中に入れること。そして、それを出して使うこと」という黒木先生の言葉が印象的でした。



またロビーでは、市原市書店協同組合協力のもと、今回の人形劇の原作『ジャックと豆の木』や、講師の黒木先生がお書きになった本、先生お勧めのアニメーションに向いている本などを集めたブックフェアを開催。休憩時間やお帰り前に、実際に本を手にとって見ることができました。

そして、市原市内で読み聞かせ活動を行っている17団体を紹介するコーナーも設け、各団体の活動様子をお知らせする紹介カードの配布も行いました。

こうして無事フォーラムを終えることができました。これからも多くの方に読書活動に興味を持っていただき、子どもたちが楽しい読書体験ができる環境をたくさん作っていきたいと思います。